文章題テスト・小説(1)

月　日

名　前

★つぎの文しょうを読んで、あとの問いに答えましょう。

光平は、じいちゃんに、夏休みに冒険につれていってほしいとたのんだ。じいちゃんは、冒険の練習だといって、流れ星がたくさんあらわれる『流星ぐん』の見える日に、光平を山へつれてきた。二人は駐車場に車をとめて、てんぼう台まで歩く。

1 太陽は西にかたむいて、ときおり強い風が背中をおす。

「さぁ、出発だ！」

2 「はいっ！」

背中に荷物をかつぎ、じいちゃんの後ろについて、光平はとことこと歩きだした。雑木林の間にのびる細い道を歩いていると、ひたいから汗がふきだしてくる。流れて目に入るとぶつくさ言ったら、じいちゃんが、腰にさげた白いタオルを広げて、ぎゅっとはちまきしてくれた。たったそれだけのことなのに、3 心までぎゅっと力が入る。

でも、軽トラが見えなくなったとたん、気弱になった。母さんとはなれて、知らない場所で寝るなんて、はじめてなのだ。

（あーあ、なんか心配。いや、ここまで来たんやから、がんばろ。『流星ぐん』って、どんなんかな？　きれいやろな。けど、真っ暗やったら、こわいなぁ。）

心の中は、大いそがしのシーソーだ。じいちゃんは、おかまいなしに進んでいく。なれない光平は、でこぼこにつまずいては、［　　］する。

/9
問正解

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

「気をつけろよ。虫も多いしな。」
「じいちゃん……。ぼく……、ものすごーく楽しみやけど、ちょっとだけ心配や。」
「そりゃあ、ちょっとくらい心配なのはあたりまえさ。まぁ、せっかく練習に来たんだから、がまんしてついてこい。」
うん、と光平は小さく答えた。
（あんず　ゆき「冒険に行こう、じいちゃん」より）
（注）軽トラ…小さなトラック。
雑木林…さまざまな木が入りまじった林。

(1) ――線1「太陽は西にかたむいて」とありますが、これは、一日のうちいつごろのようすですか。ア～エから一つえらんで、きごうを書きましょう。

ア　朝　　イ　正午ごろ
ウ　夕方　　エ　夜

ウ

(2) ――線2「はいっ！」のぶぶんを、声に出して読むとき、どのように読むとよいですか。もっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、きごうを書きましょう。

ア　大きい声で、ゆっくりと読む。
イ　大きい声で、みじかく読む。
ウ　小さい声で、ゆっくりと読む。
エ　小さい声で、みじかく読む。

イ

「出発だ！」とはりきっている場面に合うようにする。

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

(3) ――線3「それだけのこと」とありますが、どんなことですか。つぎの［　　］に当てはまることばを、文中から九字で書きぬきましょう。

じいちゃんが、光平のひたいに、

は
ち
ま

き
し
て
く
れ
た

こと。

(4) ――線4「心までぎゅっと力が入る」とありますが、どんな気もちになったのですか。もっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、きごうを書きましょう。

ア　がんばろうと思う気もち。

イ　かなしさをこらえる気もち。

ウ　楽しみでわくわくする気もち。

エ　きんちょうでこわばる気もち。

ア

(5) ［　　］に当てはまることばとしてもっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、きごうを書きましょう。

ア　さらさら　　イ　ころころ

ウ　ぶらぶら　　エ　よろよろ

エ

つまずいてふらつくようすを表すことばをえらぶ。

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

(6) ――線5「ものすごーく楽しみやけど、ちょっとだけ心配や」について、つぎの①～③に答えましょう。

① 光平の「楽しみ」とは、どんなことですか。つぎの［　　］に当てはまることばを、考えて書きましょう。

［　流星ぐんを見る　］こと。

6行前に「『流星ぐん』って、どんなんかな？」とある。

② 光平が「心配」になったきっかけが書かれているぶんの、はじめの三字を書きぬきましょう。ただし、「、」や「。」も一字と数えます。

11行目「…見えなくなったとたん、気弱になった」から、気もちのへんかを読みとろう。

［　（軽トラ）でも、　］

③ 光平が心配しているのは、どんなことですか。当てはまるものを、ア～エから二つえらんで、きごうを書きましょう。

ア 母さんとはなれて、知らない場所で寝ること。

イ 夜になって真っ暗になること。

ウ でこぼこ道につまずくこと。

エ 虫にさされてひどいめにあうこと。

［ア］・［イ］

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

文章題テスト・小説(2)

月　日

名　前

★つぎの文しょうを読んで、あとの問いに答えましょう。

おかしなはがきが、ある土曜日の夕がた、一郎のうちにきました。

かねた一郎さま　□十九日

あなたは、ごきげんよろしいほで、けっこです。

あした、めんどなさいばんしますから、おいで

んなさい。とびどぐもたないでくなさい。

山ねこ　拝

こんなのです。字はまるでへたで、墨もがさがさして指につくくらいでした。けれども一郎は[2]うれしくてうれしくてたまりませんでした。はがきをそっと学校のかばんにしまって、うちじゅうとんだりはねたりしました。

ね床にもぐってからも、山猫のにゃあとした顔や、そのめんどうだという裁判のけしきなどを考えて、おそくまでねむりませんでした。

けれども、一郎が眼をさましたときは、[3]もうすっかり明るくなっていました。おもてにでてみると、まわりの山は、みんなたったいまできたばかりのようにうるうるもりあがって、まっ青なそらのしたに[4]ならんでいました。一郎はいそいでごはんをたべて、ひとり[5]谷川に沿ったこみちを、かみの方へのぼって行きました。

すきとおった風がざあっと吹くと、栗の木はばらばらと実をおとしました。

一郎は栗の木をみあげて、

「栗の木、栗の木、やまねこがここを通らなかったかい。」とききました。

栗の木はちょっとしずかになって、

「やまねこなら、けさはやく、馬車でひがしの方へ飛んで行きましたよ。」と答えました。

11
問正解

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

「東ならぼくのいく方だねえ、おかしいな、とにかくもっといってみよう。栗の木ありがとう。」

栗の木はだまってまた実をばらばらとおとしました。

一郎がすこし行きますと、そこはもう笛ふきの滝でした。笛ふきの滝というのは、まっ白な岩の崖のなかほどに、小さな穴があいていて、そこから水が笛のように鳴って飛び出し、すぐ滝になって、ごうごう谷におちているのをいうのでした。

6 一郎は滝に向かって叫びました。

「おいおい、笛ふき、やまねこがここを通らなかったかい。」

滝がぴーぴー答えました。

「やまねこは、さっき、馬車で西の方へ飛んで行きましたよ。」

「おかしいな、西ならぼくのうちの方だ。けれども、まあも少し行ってみよう。ふえふき、ありがとう。」

滝はまたもとのように笛を吹きつづけました。

（宮沢賢治「どんぐりと山猫」による）

（注）とびどぐ…飛び道具（てっぽうなど）のこと　拝…自分の名前の後につけて、相手をうやまうことばかみの方…川上・上流

1 ――線1「おかしなはがき」について、次のようにまとめました。□に当てはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましょう。

・山ねこ（山猫・やまねこ）から、一郎あてにとどきました。

・字は（まるで）へた　で、文もまちがいだらけです。

2 ――線2「うれしくてうれしくてたまりません」とありますが、この気持ちがもっともよく表れている部分を、文中から二十字までさがし、はじめの五字を書きぬきましょう。

う	ち	じ	ゅ	う

うれしくてじっとしてられない様子を読み取ろう。

学習プリント無料ダウンロード ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

3 ——線3「すっかり」の使い方として正しいものを、ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましょう。

ア　かみの毛を短く切ったら、気分がすっかりした。（すっきり）

イ　教科書の入ったランドセルが、すっかり重い。（ずっしり）

ウ　大切なやくそくを、すっかりわすれていた。

エ　この町は、十年前からすっかりかわらない。（ちっとも／まったく）

4 ——線4「ならんでいました」とありますが、何がならんでいたのですか。文中から五字で書きぬきましょう。

まわりの山

5 ——線5「谷川に沿ったこみちを、かみの方へのぼって行きました」とありますが、一郎は何をしに行ったのですか。次の□に当てはまるように書きましょう。

やまねこに会い（やまねこをさがし）に行った。（さいばんを見（に…）などでもよい。）

6 ——線6「一郎は滝に向かって叫びました」とありますが、どうして叫んだのですか。もっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア　滝がうそをついていると思ったから。

イ　何度聞いても、滝が答えてくれなかったから。

ウ　滝が、見えないほど遠くにあったから。

エ　滝の音が、とても大きかったから。（「笛のように鳴って」「ごうごう」から考える。）

7 次の①、②に答えましょう

①□に入れるのにもっともふさわしい月を、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア　三月　　イ　六月　　ウ　九月　　エ　十二月

②①でえらんだ理由を、次の□に当てはまることばを書いてせつめいしましょう。

栗（の木）が実をおとした ことから、季節は秋 だとわかるから。（「栗の実」（が）「おちた」などでもよい。）

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

小3国語

文章題テスト・小説(3)

月　日

名　前

/7
問正解

★つぎの文しょうを読んで、あとの問いに答えましょう。

月夜に七人の子供が歩いておりました。

大きい子供も小さい子供もまじっておりました。

月は、上から照らしておりました。子供たちのかげは短く地べたにうつりました。

子供たちはじぶんじぶんのかげを見て、ずいぶん大頭で、足が短いなあと思いました。

そこで、おかしくなって、わらい出す子もありました。あまりかっこうがよくないので二、三歩走ってみる子もありました。

こんな月夜には、子供たちは何か夢みたいなことをかんがえがちでありました。

子供たちは、夜のお祭を見に行くところでした。

切り通しをのぼると、かすかな春の夜風にのって、ひゅうひゃらりゃりゃと笛の音が聞こえて来ました。

2 子供たちの足はしぜんに早くなりました。

すると3一人の子供がおくれてしまいました。

「文六ちゃん、早く来い」とほかの子供がよびました。

4文六ちゃんは月の光でも、やせっぽちで、色の白い、目玉の大きいことのわかる子供です。できるだけいそいでみんなに追いつこうとしました。

5「んでも俺、おっ母ちゃんのげただもん」と、とうとう鼻をならしました。

なるほど細長い足の先には大きな、大人のげたがはかれていました。

（新美南吉「狐」による。一部しょうりゃく）

（注）地べた…地めん　切り通し…山などを切りひらいて通した道

げた…木で作られたはきもの　鼻をならす…あまえた声を出す

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

1 ——線ー「わらい出す子もありました」とありますが、なぜ、わらい出したのですか。つぎの［　　］に当てはまることばを、それぞれ文中から書きぬきましょう。

地べたにうつった自分の［かげ］が、あまりにへんなかっこうで、［おかしく］なったから。

地べたにうつったものは何か、わらうのはどのようなときかを考えよう。

2 ——線2「子供たちの足はしぜんに早くなりました」から、子供たちのどのようなきもちがわかりますか。もっともふさわしいものを、ア～ウからえらんで、記号に○をつけましょう。

お祭の笛の音が聞こえてきたことで、（早くお祭を見たくなって）ゆっくり歩いていられなくなっているのである。

(ア) 早くお祭を見たい。　イ 早く家に帰りたい。　ウ 早く笛をふきたい。

3 ——線3「一人の子供がおくれてしまいました」とありますが、なぜ、文六ちゃんはおくれてしまったのですか。つぎの［　　］に当てはまるように書きましょう。

自分の足の大きさに［合っていない（合わない）］大人のげたをはいていて、歩きづらかったから。

大人（おっ母ちゃん）のげたは、自分の足には大きすぎて、うまく歩くことができなかったのである。

4 ——線4「文六ちゃんは月の光でも、やせっぽちで、色の白い、目玉の大きいことのわかる子供です」から、どのようなことがわかりますか。もっともふさわしいものを、ア～ウからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア 文六ちゃんは、体は小さいけれど、とてもものわかりのよい子供だということ。

イ 文六ちゃんのきれいな目が、月の光に照らされて、月よりも明るくかがやいているということ。

月の光くらいの明るさしかなくても、文六ちゃんのようすがよくわかるということ。

(ウ) 文六ちゃんの体のとくちょうは、うすぐらくてもよくわかるほど目立っているということ。

5 ——線5「『んでも俺、おっ母ちゃんのげただもん』と、とうとう鼻をならしました」について、①、②に答えましょう。

①文六ちゃんは、このことばをどのように言いましたか。ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましょう。

ア じまんするように言った。　(イ) 言いわけするように言った。

おくれてしまったのを、おっ母ちゃんのげたのせいにしている。

ウ ばかにするように言った。　エ 泣きさけぶように言った。

②「とうとう」をほかのことばにかえるとすると、どれが当てはまりますか。ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましょう。

ア やっぱり　イ またも　ウ はじめて　(エ) ついに

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

文章題テスト・小説(4)

月　日

名　前

★つぎの文しょうを読んで、あとの問いに答えましょう。

ある山の中に、おもしろいキツネがすんでいました。いつも、ひとりで歩くことがすきでしたが、ある雨の日、いつものようにえさをあさってぼつぼつ歩いていますと、男の子が四、五人、がやがや話しながら山を下っていました。

人間は二本の足で立って歩いているので、キツネはめずらしくてしかたがないのです。キツネのおかあさんは、「人間のところへ行くとひどいめにあうから、人間のところへぜったいに近づいてはいけませんよ。」と、いつもいうのですけれど、[2]キツネは、人間のすがたがおかしくてしかたがなかったのです。なによりも、ひょろひょろと、立って歩いているのがおかしくておかしくてしかたがないのです。キツネは、子どもたちのうしろから[①]ついて行きました。

「このへんはキツネのでるところだぞ。」

一人の子どもがいいました。

「昼間から出ることはないだろう。」

また一人の子どもがいいました。

「昼間でも雨がふっているから出るかもしれません。」

また、もう一人の子どもがいいました。

時々(ときどき)、とおくでかみなりが鳴っています。

子どもたちは、何となく[3]きみがわるくなったのでしょう、歩いていた子どもたちは、ふっと足をとめて耳をそばだてました。すると、一人の子どもがふいに後ろをふりかえって、キツネをみました。

[4]「あッ、キツネが出おったぞッ。」

子どもたちはびっくりして、まるで豆(まめ)がはじけたようなすさまじいいきおいで、走って山を下りはじめました。

キツネもびっくりしました。どうしてあんなに子どもたちがさっと走って行ったのだろうと思いました。雨のふるなかを、キツネもぬれながら、子どもたちの後をおいかけてゆきました。

細い山道をいくまがりもして、[②]、人間の通るらしい道の近くへきますと、山の田んぼぞいのところで、大きい牛がもうもうとないていました。

(注)いくまがりもして…何回もまがって

(林芙美子(はやしふみこ)「狐物語(きつねものがたり)」による。一部変更(いちぶへんこう))

/7
問正解

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

1 ――線ー「人間のところへぜったいに近づいてはいけません」とありますが、キツネのおかあさんは、人間に近づくとどうなると思ったのですか。文中から七字で書きぬきましょう。 すぐ前に「人間のところに行くとひどいめにあうから」とある。

ひどいめにあう

と思った。

2 ――線2「キツネは、人間のすがたがおかしくてしかたがなかった」とありますが、人間のどのようなすがたがいちばんおかしかったのですか。文中から八字で書きぬきましょう。 すぐ後に「なによりも…立って歩いているのがおかしくておかしくてしかたがないのです」とある。

立って歩いている

すがた

3 ①、②に当てはまることばを、ア～エからそれぞれえらんで、記号を書きましょう。

①「しずかに」 ②「ようやく」という意味。

① イ

② エ

ア さっと　イ そっと　ウ もっと　エ やっと

4 ――線3「きみがわるくなった」とは、「こわいかんじがした」といういみですが、そのりゆうとしてあてはまらないものを、ア～ウからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア キツネが出るかもしれないと思ったから。

(イ) 後ろからキツネの足音がきこえたから。 子どもたちの会話やあたりのようすから考えよう。

ウ とおくでかみなりが鳴っていたから。

5 ――線4「あッ、キツネが出おったぞッ。」とありますが、このことばは、どのように読むのがもっともふさわしいですか。ア～ウからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア うれしそうに、明るい声で

イ ゆっくりと、しずかな声で

(ウ) おどろいたように、大きな声で ふりかえったらキツネがいたので、びっくりしている。

6 つぎの二つの文が同じようないみになるように、□に当てはまることばを考えて書きましょう。 だれがだれになにをする（される）のか考えよう。

・キツネは、子どもたちを　おいかけた。

・子どもたちは、キツネに

おいかけられた。

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

小3国語

文章題テスト・小説(5)

月　日

名　前

★つぎの文しょうを読んで、あとの問いに答えましょう。

タツオの家には、こわれた柱時計が、そのまま、かべにかけてありました。

【この時計は、全体が古い西洋館のような形をしていて、ふりこの見えるガラスまどのあるところが、一階、文字盤のあるところが二階です。ひさしの下には、かわいいかざりまどもあり、とびらをあけると、そこからねじがまけるようになっています。】

ずいぶんまえから、とまったままですが、そんなかわったおもしろい形をしているので、おとうさんもおかあさんも、[2]かたづけてしまうのがおしかったのです。

時計のはりは、三時七分まえをさして、とまっていました。

「だからぼく、この時計を見るたびに、もうじき［　　］、なんておもっちゃうよ。」

タツオはよくそういってわらいました。

ところが、ある日のことです。

タツオが、ふと時計を見ると、はりは、三時二分まえをさしていました。タツオは、[3]おやっと思いました。

「あれ、いつの間にか、少し進んだな。こいつ、いまでもちょっとは動くことがあるのかな。」

そんなことをつぶやいて、[4]首をひねりました。でも、それはそのときだけで、すぐわすれてしまいました。

こわれた時計が、なぜ動いたのかというと、コロボックルの子どもが、あそびにきたからです。もちろん、だれもいないときに。

コロボックルの子どもは、家の形をした柱時計が気にいって、中にもぐりこみました。そして、一人がふりこをみつけると、さっそくぶらんこあそびをはじめました。

カッチン、カッチン、カッチン……。

[5]ふりこがゆれると、ほんのすこしのこっていたぜんまいの力で、はりが動きました。それで、五分だけすすんだのでした。

（佐藤さとる「コロボックルと時計」より）

（注）西洋館…ヨーロッパやアメリカふうのつくりの家
コロボックル…アイヌの人びとのでんせつにとうじょうする、フキの下にすむという神さま
ぜんまい…うずまきの形のばね

/9
問正解

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
ちびむすドリル

名前

1 【　】の中の文しょうのはたらきを、次のようにまとめました。□に当てはまることばを、文中から漢字一字で書きぬきましょう。

こわれた柱時計の［形］を、くわしくせつめいしている。

「全体が古い西洋館のような形をしていて…」とある。

2 ――線ア「古い」とはんたいの意味のことばになるように、次の□に当てはまる漢字を書きましょう。

［新］しい

3 ――線2「かたづけてしまうのがおしかった」について、次の①、②に答えましょう。

① この意味としてもっともふさわしいものを、ア～ウからえらんで、記号に○をつけましょう。

㋐ かたづけてしまうのはもったいないと思った

イ かたづけられなくてざんねんだと思った

ウ もうすこしでかたづけられそうだった

② おとうさんとおかあさんが、このように思ったのはなぜですか。もっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア 思いでのつまった品だったから。　㋑ かわったおもしろい形をしているから。

ウ また動くようになるかもしれないから。　エ ほかに時計がなかったから。

4 □に当てはまることばとしてもっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。　もう少しで三時だなと思ってしまう。

ア 動くかな　イ 帰ってくるな　㋒ おやつだな　エ ゆうごはんだな

5 ――線3「おやっと思いました」とありますが、タツオがこのように思ったのはなぜですか。次の□に当てはまることばを考えて、五字までで書きましょう。

時計のはりが［少し進んで］いるのに気がついたから。

「いつの間にか、少し進んだな」とおどろいている。

6 ――線4「首をひねりました」とありますが、タツオはどのように思ったのですか。次の□に当てはまることばを、考えて書きましょう。

［ふしぎ］だなと思った。

7 ――線5「ふりこがゆれると」とありますが、ふりこがゆれた理由を次のようにまとめるとき、□に当てはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましょう。

［コロボックルの子ども］が、時計のふりこで［ぶらんこあそび］をしたから。

学習プリント無料ダウンロード ちびむすドリル ちびむすドリル